



よさこい踊る

文野見枝子

(高知)

川霧のけぶれる中に佇みて白鷺の目の見てる異世界

白鷺は首を伸ばして佇めりあるなしを問う禅僧のごと

素のままのわたしで良いと天からの声を聞きたし空に織月

のどの奥甘い刺激が通りすぐまつ赤なニツキ水の追憶

べろの先まつ赤に染めてあつかんベレトロな店にニツキ水飲む

とつぷりとミルクを苺にかけたとき草間弥生の世界を思う

自転車で横断しゆく学生がいがり頭をちよんと下げたり

通り雨ぺんぺん草に降りそそぎハートの種がよさこい踊る

沖縄の強さ明るさ優しさが胸に届くよ「いちやりばちよーでー」^{*}

* 出会えば皆きょうだい

沸騰する地球が吐き出す熱風を受け止めきれない人間われら

雷が徐々に近づく七月の庭から猫を収監しなきや

山の峰うすみず色に染まりたりその山裾に蕎麦食べにゆく

紫陽花を水に浮かべて小さき鯉泳がせている店に並びぬ

初夏のみどりの中に佇めばピッコロ大魔王が覗きいるかも

合歓の花ほわほわ咲きて散るまでの季のながれの穏やかであれ

このごろの私

アラ古希の私。この歳になつて、と自分を縛ってきたような気がする。「年齢を脱ぐ冒険を着る 私を楽しむ。」樹木希林さんの言葉に刺激を受け、ピンクのマフラーを巻いて出かけています。



小さき種より

吉田 真弓

(北海道)

このごろの私
列車に乗るのが好きで、列車を乗り継ぐ旅に出かけています。鉄道マニアといえる程の乗車数も知識もありませんが、列車の走行音を聞きながら、車窓を流れる景色を見ることを楽しんでいます。

さ緑の小鳥の形の葉の面おもてひかり集まる銀杏の並木

よつこらしよと小さき掛け声聞こえさう朝顔発芽す土をかき分け

茎まるめお辞儀の形に出できたり朝顔の芽は土持ち上げて

両の手を広げて伸びをすることく朝顔は小さき双葉をひらく

寄せ植ゑの花にもそれぞれ個性あり様子計りて水を遣りたり

鍋洗ひ雑巾絞り洗濯す共に働くアライグマ欲し

当たり前と思ひゐしこと無くなりて列に並びぬ卵買ふため

美しき鏡の魔術か万華鏡変はりゆくさま飽かずに覗く

木を揺らし頬を撫でつつ吹き過ぐる風と歩めり駅への道を

強靱な腕持つごとく木を揺すりわが頬うてり今日を吹く風

すがた変へ流れゆく雲 青空は雲と風との大ききキャンバス

青空にゆるりと浮かぶ白き雲おなじ形はひとつもなくて

開けたいが袋破れぬ二歳児は変身ポーズす力付けむと

変身の意味わかるらし幼な子は真剣に見るテレビのギーツ

水遣りはしてきたつもりさあれども雨後の花々いきいきとせり